



幼稚園のお母様はかやうに

水島 さゆり

春の牧場にソツト涌く泉のやう。

二

幼稚園のお母様の胸は、
若草のもえ出る牧場に、

ソツト涌く泉のやう。

幼ない子供等が

その胸にじつと耳をあて、

美妙的な泉の歌をきいて、

おもしろいよ、愉快だよ、

ポコボン、ポコポコボンと歌つてるよ。

幼稚園のお母様の胸は、

幼稚園のお母様のお顔は、

眞夏の朝

バツト開いた朝顔のやう。

生々として、

さはやかで、

目が覺めるやう。

子供等の美しい清らかな瞳にうつる

幼稚園のお母様のお顔は、

眞夏の朝、

パツと開いた朝顔のやう。

三

ドングリの小人に相撲をとらせようね。

葉つ葉のダンスといつしよにやらうよ。

自然を愛する子供等、

味のない木の實も、

風に舞ふ枯葉も、

可愛い、友達、

面白い仲間。

子供等と自然を愛し、

子供等と自然を楽しみ、

子供等の自然に

無限の感謝を捧げる者は誰——。

子供等と同じく

自然に愛せらるゝ

幼稚園のお母様——。

四

雪のどつさりつもつた晩に、

コツソリと煙突からはいつて来る

サンタクロースのおぢいさん。

おもちやの一ぱいにはいつた袋から、

人形や太鼓やお手玉を、

眠つてゐる子供等の枕べへ、

にこ〜顔でソツとおいていく。

あのサンタクロースのおぢいさんは、

誰だらう、どこの人だらう——。

きつとあれは幼稚園のお母様よ、

幼稚園のお母様が

サンタクロースのおぢいさんになつて、

コツソリと来るのよ。